

2021年サンクスギビングデー特別集会のための標語

神聖な三一の中で生きることは、彼の中に住むこと、彼の中にとどまること、わたしたちのホームとしての彼の中に居住することです。神聖な三一と共に生きることは、彼がわたしたちの中に住んで、わたしたちがわたしたちと共にある彼の臨在、彼のパーソンを持って、享受することです。

神聖な三一と共に生きることは、復活したキリストにわたしたちの中で生きていただくことです。復活が意味するのは、すべてが神からであって、わたしたちからではないということであり、また神だけができ、わたしたちはできないということであり、またすべてが神によって行なわれ、わたしたちによってではないということです。

わたしたちが神聖な三一と共に生きることができるのは、イエス・キリストの霊（苦難を受けるイエスの霊と復活したキリストの霊）の満ちあふれる供給によってです。わたしたちはこの供給によって、すべての環境において、キリストを生き、キリストを大きく表現することができます。

神聖な三一を完全に経験し享受すること、すなわち神の愛、主イエス・キリストの恵み、聖霊の交わりにあずかることが究極的に完成されるのは、今おられ、昔おられ、やがて来ようとしておられる方によってであり、七つの霊によってであり、忠信な証人、死人の中から最初に生まれた方、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストによってです。

サンクスギビング特別集会
メッセージのアウトライン
(2021年11月25日—28日)

主題：神聖な三一の中で、また神聖な三一と共に生きる

メッセージ 1

神聖な行動における、またわたしたちの経験における
神聖なエコノミーと神聖な三一の神聖な分与

聖書：I テモテ 1:3-5. ヨハネ 4:14 後半. マタイ 1:18, 20-21, 23.
3:16-17. 6:9-10, 13. 12:28. 28:19

- I. わたしたちが見る必要があるのは、聖書における中心的な事柄とは、神聖なエコノミーと、キリストにある信者たちの中への神聖な三一の神聖な分与であり、キリストのからだとしての召会を建造して、キリストのからだ新エルサレムにおいて究極的に完成し、三一の神の永遠の、団体的な表現となることであるということです——I テモテ 1:3-5. エペソ 3:14-21. 4:16. 啓 21:2, 10-11 :
- A. 神聖なエコノミーとは、神の家庭の行政であり、ご自身を彼の神聖な三一の中で、彼の選ばれた人の中へと分与することです。それは、彼らが造り変えられて、召会を生み出すためです。召会はキリストのからだ、神の家、神の王国、キリストの配偶者、すなわち、新エルサレムであるものの究極の集大成です——I テモテ 1:3-4. ヨハネ 1:14, 29. 使徒 2:24. I コリント 12:12-13. 15:45 後半. I テモテ 3:15. 啓 5:10. 21:2。
- B. 神に関して新約で述べられているすべての事は、神聖なエコノミーのための神聖な分与と関係があります。神聖なエコノミーの完成は、神聖な三一の神聖な分与によります——ローマ 8:3, 11. エペソ 1:3-23. II コリント 13:14. エペソ 3:14-21。
- C. 聖書全体は、支配するビジョンにしたがって書かれました。そのビジョンとは、三一の神がご自身を彼の選ばれ贖われた人の中へと造り込んでおり、彼らの命また命の供給となることであり、それは、彼らの全存在が神聖な三一で浸透されるため、すなわち、源泉としての御父、脂肪分としての御子、川としてのその霊で浸透されるためです——詩 36:8-9。
- D. 三一の神（父、子、霊）は、手順を経て命を与える霊と成りました。それによってわたしたちは彼から飲んで、彼はわたしたちの享受となることができます。これは神聖な三一の神聖な分与です——ヨハネ 1:14. 4:14. 7:37-39. I コリント 12:13. 15:45 後半. II コリント 13:14。
- E. わたしたちが生ける水から飲むとき、それはわたしたちの内で「源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至る」のです（ヨハネ 4:14 後半）。起源としての御父は源泉であり、表現としての御子は泉であり、伝達としてのその霊は流れです。「へと至る」という前置詞は、「となる」という意味でもあり、永遠の命の総合計は新エルサレムです。ですから、神聖な三一がわたしたちの内側で流れ、わたしたちから流れ出した結果は、わたしたちが新エルサレムとなることです（7:37-39. 詩 46:4. 啓

22:1-2. 7:17. 21:6. 22:17)。

II. 神聖なエコノミーと神聖な三一の神聖な分与という支配するビジョンに基づいて、わたしたちは神聖な行動における、またマタイによる福音書でのわたしたちの経験における神聖な三一を見ることができます：

A. マタイ第1章で、聖霊（18, 20節）、キリスト（御子——18節）、神（御父——23節）が、人なるイエスを生み出すためにいます（21節）。イエスはエホバ・救い主また神われらと共にいます方として、三一の神の具体化です：

1. マタイ第1章20節と21節は、聖霊からの神聖な受胎と、イエス（御子）の誕生を啓示しています。次に23節は、この方が人々によってインマヌエルと呼ばれたと告げています。インマヌエルは、「神 [父なる神] われらと共にいます」を意味します。
2. 父なる神がわたしたちと共にいますことは、聖霊からの神聖な受胎と、イエス（御子）の誕生の結果でした——参照、ルカ 1:35。

B. マタイ第3章で、御子は、開かれた天の下でバプテスマの水の中に立っており、その霊は、はどのように御子の上に下り、御父は、天から御子に語りました——マタイ 3:16-17：

1. 主イエスはその霊から生まれ（ルカ 1:35）、彼の誕生のために本質上、彼の内側で神の霊を持っていました。次に、彼の務めのために、神の霊が彼の上にエコノミー上、下り、彼を油塗って新しい王とし、彼を彼の民に紹介しました——イザヤ 61:1. 42:1. 詩 45:7。
2. 主がバプテスマされて神の義を成就し、死と復活に渡されたことは、彼に三つの事柄をもたらしました。すなわち、開かれた天、下って来る神の霊、御父の語りかけです。それは今日わたしたちが、神のエコノミーを完成することでも同じです——マタイ 3:16-17。
3. 神の霊ははどのように主イエスの上を下ることによって、主イエスは優しさと単一の中で務めをし、ひたすら神のみこころに焦点を合わせました。その霊が下ることはキリストを油塗ることでしたが、御父が語ることは愛する子としての彼に対する証しでした。

C. マタイ第6章で、主がわたしたちに祈るように教える祈りは、三一の神をもって始まり、その順序は父、子、霊です（9-10節）。そして三一の神をもって終わりますが、その順序は子、霊、父です（13節）。このように祈ることは、三一の神が天で優勢であるように、地上でも優勢になるようにと祈ることです：

1. マタイ第6章9節から10節で、主は信者たちに三つの嘆願を表明することによって祈るように教えています。三つの嘆願は神格の三一を暗示します。「あなたの御名が聖とされますように」はおもに御父と関係があり、「あなたの王国が来ますように」は御子と関係があり、「あなたのみこころが……行なわれますように」はその霊と関係があります：
 - a. 彼の御名が聖とされるために、わたしたちは生活の中で、神へと分離され、神で浸透された日ごとの生活をもって彼を表現すべきです——I ペテロ 1:15-17. II ペテロ 1:4. 参照、イザヤ 11:2。

- b. 神の王国が来るために、わたしたちは義と平和と聖霊の中の喜びとの生活をしなければなりません——ローマ 14:17。
 - c. 神聖なみこころが地で行なわれることは、天の支配、天の王国をこの地にもたらしことです——参照、マタイ 8:9 前半。
 - d. これはこの時代に成就されつつあり、究極的には来たるべき王国時代に成就されます。その時、神の御名は全地において卓越し（詩 8:1）、世の王国はキリストの王国となり（啓 11:15）、神のみこころは達成されます。
2. 主の祈りの模範はこう言って結びます、「それは王国と力と栄光とが、永遠にあなたのものであるからです。アーメン」——マタイ 6:13 :
- a. 王国は御子のものであり、神が彼の力を行使する領域です。力はその霊のものであり、神の意図を遂行します。それによって御父は彼の栄光を表現することができます。
 - b. ですから、主が彼の至高の教えの中で教えた祈りは、父なる神をもって始まり、また父なる神をもって終わります。父なる神は初めであり終わりであり、アルファでありオメガであり、それは、父なる神がすべての中ですべてとなるためです——I コリント 15:28。
- D. マタイ第 12 章で、御子は人のパースンの中で、その霊によって悪鬼どもを追い出し、父なる神の王国をもたらしました——マタイ 12:28 :
- 1. 彼が悪鬼どもを追い出した方法は、別の方によってであり、別の方のためでした。それは、彼が個人主義的にではなく、へりくだって自己なしに行動したことを示しました。
 - 2. 御子は神聖な三一の中心として、絶対にご自身によらず、ご自身のためではなく、ご自身に対してではありませんでした。彼が行なったことは何であれ、神の霊によってであり、父なる神の王国のためでした。
 - 3. 御子のご自身によって何も行なわず、あるいはご自身のためには何も行ないませんでした。ここでわたしたちは、彼のへりくだりと自己のないことを見ることができます。これはまたわたしたちに、神聖な三一における調和、麗しさ、卓越性を見せています。
 - 4. マタイ第 12 章 28 節における神聖な三一の行動と神聖な組み合わせは、わたしたちが従うべき卓越した麗しい模範です。これは、わたしたちのかしらが、彼のからだの肢体であるわたしたちの組み合わせのために立て上げた良い模範です：
 - a. 今日、召会生活の中で、正常な組み合わせに欠けるゆえに、キリストのからだは十分に建造されていません。
 - b. わたしたちは神のみこころにしたがって何かを行なうかもしれませんが、わたしたちが行なう事は、自分自身によってであるべきではなく、他の人によってであるべきです。さらに、わたしたちが行なう事は、受益者であるわたしたち自身のためであるべきではなく、この地上での神の権益、権利のためであるべきです。
- E. マタイ第 28 章で、最後のアダムとしてのキリストは（I コリント 15:45 後半）、十字架の手順を経過し、復活の領域へと入り、命を与える霊と成った後、彼の復活の

雰囲気と実際の中で彼の弟子たちに戻って来ました。そして諸国民を神聖な三一の御名、パーソン、実際の中へとバプテスマすることによって、彼らを王国の民とするように命じました——マタイ 28:19 :

1. キリストが手順を経た三一の神の中心であることは、弟子たちが人々をキリストの中へとバプテスマすることによって、手順を経た三一の神の中へと彼らをバプテスマするためです——使徒 8:16. 19:5. ガラテヤ 3:27. ローマ 6:3-4. I コリント 12:13。
 2. 人々を三一の神の御名の中へとバプテスマすることは、彼らを彼との有機的で、霊的で、奥義的な結合の中へともたすことです。
 3. 神聖な三一のための一つの御名は、神聖な方の総合計であり、彼のパーソンと等しいのです。だれかを三一の神の御名の中へとバプテスマすることは、彼を三一の神であるすべての中へと浸し込むことです。
- III. 実際の霊がわたしたちを、神聖な行動において、またわたしたちの経験において、神聖なエコノミーと神聖な三一の神聖な分与とのすべての実際の中へと導いてくださるようにと、わたしたちは祈る必要があります。わたしたちは、神聖な三一の中で、また神聖な三一と共に生きる者となって、彼をわたしたちの生活の実質また要素として持つ必要があります——ヨハネ 16:13. 15:4-5。**